令和元年度 指導法研修会 「器械運動部会」

授業者 ： 三郷町立三郷北小学校 赤濱 雄一先生

【授業研究Ⅱ】

◇日時・場所 10 月 24 日（木）１４：００～ 三郷北小学校

◇題材・学年「目指せ！跳び箱名人！」 ６年生 跳び箱

◇協議内容の概要

前回の協議をもとに作成していただいた指導計画や本時案に沿って、実際に体育館に場を準備しながら、授業の流れを確認し研究協議を行った。

☆授業者より

・前回の研究協議をもとに、かかえこみ跳びと伸膝台上前転を取り扱う全９時間の指導計画とした。首はね跳びは台上前転と技の系統性が違い発展技にしにくいため、紹介に留める。

・録画した内容を１０秒後に自動で再生できるアプリを入れた ICT を活用したい。

・電子黒板の活用→タブレットの動画と共有させたい。

・サーキットは６人６グループで、１分２０秒間隔で６つの場をローテーションする。

・ポイントタイム（教え合い学習）について、同じ跳び箱の場を６つ作って、一人が技をしたら全員で話し合いをさせる。子どもはアドバイスがほしいと思うので、しっかりと話し合いをさせたいが、運動量や技能面については、また別の時間で十分に確保したい。

☆質疑応答

Q：実際に動きを見てどんなアドバイスをしたらよいかわからない子が ICT を見てもわからないのではないか。ICT はアドバイスを受けて、確認のために使った方がよいのではないか。

A：自分の動きを客観的に見る機会があまりないので、ICT を活用しようと考えている。ICT はあくまでも掲示物などと同じように補助的に使っていきたい。

Q：ICT の遅延カメラは１０秒後に再生されるので、映像を見てからの話し合いになるのではないか。

A：遅延カメラのデメリットは 1 人が技をしている時に、他の人が ICT を見ていてだれもその技を見ていない可能性があることである。本時では見るポイントを「膝が伸びているか」にしぼり、技がなんとなくできたではなく、ICT でしっかり確認をさせたい。

Q：スキルアップタイムが終わった後に自分の技を試す機会はあるのか。一人一回でも最後に技の確認をしてもよいのではないか。

A：もう一度、ポイントタイムのようにグループに戻って確認することは考えていない。

☆指導助言　奈良県教育委員会保健体育課指導主事　岩垣和徳先生より

・台上前転が苦手な児童の場はどうするのか。段数を下げるなど、スモールステップの場が大切である。個人に合った場に変えることも必要である。また、器械運動ではその児童がこれまでにどんな運動経験を積んできたかが大事である。

・感覚つくりの運動の場では、それぞれの場の意味をしっかりと押さえておくこと。それぞれの局面だけではなく、スタートからフィニッシュまでを経験させ、技全体のイメージをもたせることが大切である。また、その技ができそうだと思わせるような場も準備しておくこと。

・ICT の使用を前提に考えた授業ではなく、ICT の活用と指導のねらいが合っているか確認する必要がある。

・ICT を使用することによって、運動量が少なくなることもある。思考・判断・表現をねらいとした時間と知識・技能をねらいとした時間では、運動量にも違いがある。単元全体を考えながら、指導内容の軽重を踏まえ、運動量が少なくなった場合には別の時間で補えるようにすること。

・運動が苦手な児童にも、どこがポイントかわかるようにするため、技のポイントを全体で共有することは大切である。